



中村宏太(なかむら・こうた)は1975年鎌倉生まれ、1995年、Stom King High School 卒業、1999年、Syracuse University 美術学部油画卒業、2003年、New York School of Visual Arts 修士課程修了、2010年、東京芸術大学大学院油画博士課程修了。2003年からニューヨークと東京のグループ展に参加、今回が初個展となる。中村は様々なタイプの作品を11点、画廊内に展示した。中村の代表作は、各素材に実弾が打ち込まれ完成する。実弾の痕跡を辿る作品とは、ニキ・ド・サンファルを思い起こすことができるが、ここではマルセル・デュシャンの場合と比較する。デュシャンは1915年9月に「彼女の独身たちによって裸にされた花嫁、

さえも(グリーン・ボックス)」という文章を書いている。和文で100頁余りのこの文章は体系的に書かれていて、その第6に「射撃痕」という件がある。「...この標的は結局(透視図法における)消失点に対応するものである...透視図法(あるいは全く別な慣習的な手段、発射銃...)によって線やデッサンは「強制されて」いるものであり、「いつも可能であるもの」のおおよそを失い、更にはこの透視図法(或は別の慣習)に従って不可避免的に生成する標的自体或は最初の対象を選んだことのアイロニーも失う(『善著作』北山研二訳 | 77-79頁)。慣習性を突き破る視線を携える必要がある。それは、我々も中村も同様であろう。

